

## 第2回「富安陽子 腕だめし STORY COMPE. 2025」

### 投票時にいただいた主な感想

#### A：この電車はアフリカ行き

- ・どうなるのか、全く予想がつかなくてドキドキしました。パンも美味しそう。
- ・面白くて笑えたり、ぐっときて泣きそうになったり、5つの物語それぞれに素敵な色がありました。その中で、「この電車はアフリカ行き」は声を出して読んだ時の面白さが格別で、きっと聞いてくれる子どもたちも楽しいだろうなと思いました。
- ・グイグイ引き込まれる展開でした。
- ・勝手な想像ですが、ワニは命を終えてアフリカ行きの電車に乗っていたのかしら。ちいさな子どもには心細かったかもしれないけど、間違い乗車も悪くない。このお話を読む子どもは、レイヨウとかアフリカの場所とか、いろんなことを調べるだろうな。
- ・電車でアフリカに行けるわけないことは子どもでもわかると思いますが、でも電車はどんどん進むし、この先どうなるんだろうという不安とちょっとした期待感やドキドキもあり、一気に読めました。子どもの頃に読んだ児童書を思い出しました。
- ・父とはぐれた不安感と、しっかりしなきゃというお兄ちゃんぶりに心をつかまれた。勇気をもって行動するって冒険だと感じた。
- ・ワニとパンのワードが、自然にお話に溶け込んでいて、電車がアフリカ行きというアイデアも素晴らしく、ワニとユウキ君の会話も楽しかったです。水槽に入ったワニの絵が目浮かぶようでした。日産童話と絵本のグランプリが延期になってがっかりした者の一人です。このような機会を作ってくださった富安先生のお気持ちが、本当にうれしく、これからも頑張って書いていこうと思います。
- ・話の展開に無理なところがなく、動物園を引退したワニが故郷のアフリカに帰る電車という設定も面白いと思った。読後は主人公とともに安心感と冒険できた満足感で幸せな気持ちになれた。
- ・電車に間違えて乗ってしまうところは、そんなに無理やりの設定でなく、違和感なく読めましたが、本来停まるはずではない駅に停まっているということをごどこかで念押ししたほうがよいかと思います。動物園発の電車が、どうして動物園に向かう電車のホームにいるの？と思ってしまうから。でも長年、動物園にいた動物たちが、故郷に帰る事ができるのかと思うと、ちょっとうれしい。パンは、心を通わすアイテムになったかな。
- ・動物園からアフリカ行きの電車がでていう発想がおもしろかったです。もしかしたら、さまざまな動物のそれぞれの故郷に向けた電車がでていくのかも…と想像が膨らみました。

#### B：月と少女とこげたパン

- ・こげたパンの苦さが結末の切なさをより際立たせていてよかったです
- ・限られた枚数の中でファンタジックな世界が描かれていて、情景が思い浮かびます。パンのこげた苦みは、淋しさか哀しさか後悔か、色々な読み方が広がるように思いました。
- ・お互いにちょっと不器用な、カヤとンガロが可愛らしく思える作品でした。静かに流れる時間が心地よかったです。ンガロの作るパンがいつも苦いというのが好きです。その苦みを噛みしめて、ンガロを思うカヤのラストシーンにほろりとききました。

- ・月と少女とこげたパン、たった 10 枚でここまで深い作品になるなんて。ワニとパン、というワードからは、ユーモラスな世界を思いうかべますが、こんなシリアスな展開を作られた想像力がすごいです。生きていくことの苦さとそれでもまっすぐに立つカヤの強さに感動しました。ワニでなくても成立するかも？と思いましたが、とても素晴らしい作品と思いました。

### C：はかせのふしぎなパン

- ・はかせとスグルとアリのキャラ設定や細部の場面描写も良かったですが、ワニ語が通じないところなど、舞台上の時空の差異を丁寧に書いてくれた点が特に面白かったです。

### D：ミドリとわしのオバケやしき

- ・ワニ(弱気)と女の子(強気)の関係が、逆転しておもしろい。自立した女の子のキャラクターに好感が持て、ワニといっしょに応援したくなる。オバケ屋敷のように見える四角い家が何なのか興味がわき、早く知りたくなる。
- ・主人公のワニとミドリの対照的な性格が物語を引っ張っていて面白い。

### E：ワニくんのパンづくりきょうしつ

- ・対象年齢はやや幼い子のような感じがしますが、絵本的な展開で、ワニの背中をパン作りに使うという発想が新鮮でした。ワニがパンを作るというのが普通なのでしょうけど、ワニが何もしないで役に立っているところがよかったです。また、そのあと売りに行く仕事というのも、絵になるお話だなあ…絵をたっぷりつけて、読みたいなあ…と、思いました。
- ・お話の展開も面白く、読後感が良かったです。
- ・とても面白くて一番笑いました。ワニくんの手短いですもんね、そりゃパンをこねたりできませんよね。でも、そんなワニくんにもできることがあって、些細なことでも役立つことがある。それを認め合える仲間がいる、という隠れたテーマにも心か温かくなり素敵でした。また、物語世界の風景やキャラクターたちの絵柄も浮かんできて、本当に絵本になったらいいのにと思いました。この物語をよんで笑いあう子どもの顔が浮かんできました。
- ・なぜワニなのか、パンなのか、理由に納得できた。ワニの成長と、どんな存在でもその存在にしかできないことがある、というメッセージがよかった。
- ・森でのパンづくりの様子や途中ワニくんの寂しそうな雰囲気的情景が浮かんできました。最後、ワニくんが自分の出来ることでみんなに喜んでもらうという流れもほっこりしました。
- ・ワニくんの心の変化が想像できて時に悲しく時に嬉しく時に応援したくなりました。
- ・読みやすく、ワニくんがパンを作る話かなと思ったら作れない！という展開など、予想を少しずつはずされながら、ひきこまれていきました。
- ・はぐれものに、仲間ができるという王道の内容でしたが、安心して読めてほっこりしました。
- ・ワニの背中で作るパンを作る発想は無かったです。ワニくんが幸せな姿になる様子が目に浮かびました。